

前回までの準備委員会まとめ

環の拠点創出事業準備委員会議事の流れ

第1回

H25.2.14

- 1 委員委嘱
- 2 会長、副会長選出
- 3 環の拠点創出事業概要説明

上狛南部(茶問屋街)において、その歴史的町並みを活用し、地域との交流の環、健康づくりの環、サイクリングの環をつなぐ環の拠点を整備し、地域振興を図る。

- 4 自転車利用者アンケート調査の実施説明
- 5 現地視察(上狛南部・茶問屋街)



第2回

H25.3.27

- 1 施設選定

施設名: 京都やましろ農業協同組合倉庫
 地番: 山城町上狛北的場15番地
 所有者: 京都やましろ農業協同組合
 面積: 約165m²



選定理由

- ・国道24号にほぼ隣接しており、JR上狛駅からも近く、茶問屋街への玄関口として活用できる。
- ・山城支所等の公共施設が隣接しており、複合的な施設利用が可能。
- ・茶問屋街の趣旨に合った、代表的な伝統的木造建築である。

- 2 設置方法

- 3 導入機能(自転車アンケート等から)

- ・PR看板の設置
- ・拠点施設に直売所(地域の特徴的なもの)などの設置
- ・バイクスタンドの設置
- ・シャワーなど(手洗い場)の設置
(経営面)
- ・利益が出るような仕組みづくりで継続性を図る
- ・体験型プログラムの実施 など



第3回

H25.5.9

- 1 導入機能について
- 3 運営手法について
- 5 設置財源について
- 2 運営主体について
- 4 広報戦略について

骨子(案)

木津川市環の拠点創出事業に関する

提言書

平成25年 月

木津川市環の拠点創出事業準備委員会

はじめに

木津川市環の拠点創出事業準備委員会

会長 山崎 正史

目 次

1	検討にあたって	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○
	(1) 現状の観点		
	(2) 地域における課題		
	(3) 環の拠点創出事業の基本方針		
2	検討の結果	・・・・・・・・・・・・・・・・	○
	(1) 拠点施設に関すること		
	(2) 運営主体に関すること		
	(3) 広報戦略に関すること		
	(4) 設置財源及び運営財源に関すること		
3	事業の実現に向けて	・・・・・・・・・・・・	○
4	資料	・・・・・・・・・・・・	○
	木津川市環の拠点創出事業準備委員会条例		
	木津川市環の拠点創出事業準備委員会 名簿		
	木津川市環の拠点創出事業準備委員会 協議状況		
	木津川市環の拠点創出事業準備委員会 会議結果要旨		
	自転車利用者アンケートの実施結果		

1 検討にあたって

(1) 現状の視点

■歴史的な視点

木津川市は、古都奈良と京都を結ぶ主要な陸路である奈良街道や伊賀街道と、大阪・神戸方面への重要な水運であった木津川が交差する位置にあり、古くから流通が盛んで商業が栄えた地域である。泉大橋下流には「泉津」という港が置かれ、古くは平城京造営のための木材を荷揚げするなど、歴史的にも重要な港として栄えていた。

そのため、港の周辺地域も早くから繁栄し、木津川左岸には木津本町、右岸には上狛南部と歴史的な景観が残された町並みが、現在も残されている。特に、上狛南部では、近世中頃から、このような流通網を活かして、綿花を中心とした商業作物の貿易が盛んに営まれた。

明治時代に入ると、アメリカやイギリスなど海外において、日本茶の人気が高まったことから、上狛南部でも綿と兼業して茶商を営む商人が増え、日本茶が木津川の水運によって、神戸から海外へ輸出されるようになった。

その後、多様な繊維の登場により綿花の取引は減少していくが、茶商専業の商人が増え、現在でも30数件の茶問屋が事業を展開されている。

■サイクリングの視点

木津川市の泉大橋（左岸側）は、府道京都八幡木津自転車道線の終点である。この自転車専用道は、泉大橋から木津川沿いに北進し、宇治川・桂川の三川合流を経て、さらに桂川沿いに嵐山の渡月橋右岸へとつながっているだけでなく、大阪方面からのアクセスも容易であり、道路としても自転車が通行しやすいように整備されている。近年のサイクリングブームから、サイクリング愛好家による利用が増加している。

自転車道の終点となる泉大橋は、茶問屋街と同じように、木津川の水運を利用した古い町並みが残る木津本町地区や加茂船屋地区、加えて、多くの観光客が訪れる淨瑠璃寺・岩船寺・石仏の道のある当尾地区など歴史的な景観を残すスポットへも、5kmから8km程度の距離にある。

また、恭仁宮跡・石のカラト古墳・椿井大塚山古墳等の遺跡も5km圏内にあり、サイクリングの視点からの新たな観光ルート等を提案することにより、木津川市への新たな観光客の開拓につなげていくことが期待できる。

■観光の視点

上狛南部茶問屋ストリート整備調査研究会による報告書（平成15年3月）では、茶商が地域内に点在し、保全度が高い伝統的な木造建築が多く残されていることが調査結果として示されている。これらの景観は、心のよりどころと安らぎを与える財産であり、この財産を将来の世代に継承するため、本地域の環境整備を図ることが必要である。

また、JR上狛駅から約400mの位置にあることから、市内だけでなく、市外からの観

光客の開拓にも繋がることが期待できる。

■周辺の環境整備の視点

市内のさまざまな観光スポットからも移動距離や観光などの拠点位置として恵まれていることから、サイクリング観光ルート及び周辺散策ルートを提案することで、茶問屋街を起点とした観光ルートを設定できる。

また、サイクリスト及び観光客の交流拠点を整備することで、交流人口の増加による地域産業の活性化と、地域住民の生きがいや居場所づくりにもつながることが期待できる。

(2) 地域における課題

上狛南部は歴史的な背景から、周辺地域の中心地として栄え、現在も山城支所や木津川市山城町商工会等といった公共的施設が集積している。しかしながら、少子高齢化や自動車社会の進展により、食料品をはじめとする生活必需品等を販売する商店も少なくなるなど、地域振興のあり方が課題となっている。

(3) 環の拠点創出事業の基本方針

■拠点施設の設置

サイクリストをはじめ、公共交通や自動車を利用する観光客や、地域住民が交流を深める空間づくり、いわゆる環の拠点施設整備が必要である。

また、歴史的風情のある茶問屋街のイメージに合致した施設整備をすることで、この地域における課題解決につながっていく。

■地域における整備

木津川市には、歴史的な景観を残す観光スポットも多様にあることから、上記の拠点施設を中心とした、サイクリングルート及び散策ルートの設定により、小都市観光の発展が期待できる。

①木津川市内の名所を巡るサイクリングルートの設定

所要時間などにより何種類かのルートを設定する。また、将来的には、各ルートの名所ポイントにおいて、サイクリストの訪問者が魅力を感じる設備(バイクスタンドなど)の整備を図っていく必要がある。

②環濠集落・木津本町の歴史的町並みなどの散策ルートの設定

茶問屋街と集落を結ぶ1本の道を行って戻ってくるのではなく、それらを結ぶ散策ネットワークを設定することが必要である。

2 検討の結果

(1) 拠点施設に関すること

ア 拠点施設選定

拠点施設は次の施設を選定する。

施設名：京都やましろ農業協同組合倉庫

地番：木津川市山城町上狛北的場15番地

所有者：京都やましろ農業協同組合

面積：約 165 m²

選定した理由は次のとおりである。

○ 立地場所としての評価

- ・国道24号にほぼ隣接しており、JR上狛駅からも約400mの位置に立地していることから、観光誘客面からも利便性が高く、茶問屋街の玄関口として活用できる。
- ・古くから上狛地域の中心であり、現在も山城支所庁舎等の公共的施設が隣接しており、複合的な施設の利用が可能である。
- ・近年の健康やエコ志向に基づくサイクリングブームにより、自転車愛好家の利用が増加している府道京都八幡木津自転車道の終点である泉大橋から、北へ約1,300mの近距離に立地している。
- ・施設周辺には、自転車愛好家からもニーズの高い、コンビニエンスストア及び飲食店が既に立地しており、周辺には自動販売機等も多く設置されている。

○ 建築物としての評価

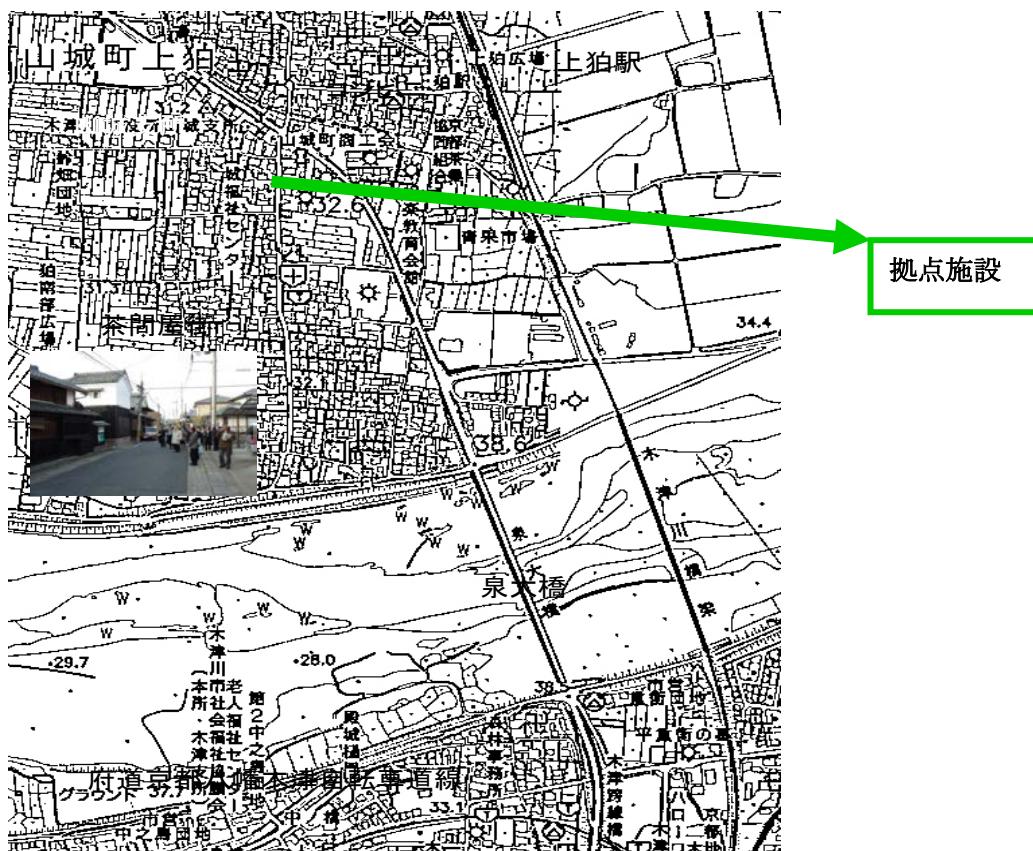
- ・茶問屋街の趣旨に適合した歴史的な伝統的木造建築である。
- ・建築基準法上も現在の雰囲気を残した改修等が可能である。

【拠点施設】

○施設全景



○位置図



イ 拠点施設設置方法

拠点施設の設置主体は次のとおりとする。

所 有 者 京都やましろ農協協同組合

使 用 者 木津川市山城町商工会

施設整備者 木津川市

当該施設は京都やましろ農業協同組合の所有の倉庫であり、使用者は木津川市山城町商工会である。ともに、古くから地元地域に根付いた活動をされてきた公共的団体であり、今後も引き続き、地域貢献事業として、現行どおりの方式で活用するべきである。

また、不特定多数の利用者が安全に集える施設としての多額の改築経費も想定されることから、施設整備の主体は木津川市とし、観光及び上狛地域の地域振興施策として整備を行うべきである。

ウ 拠点施設導入機能

拠点施設に導入する機能は次のとおりとする。

○基礎的機能

トイレ、駐車場、自動販売機（飲物）、会話スペース（ベンチ）

○サイクリスト向け機能（サイクリスト支援コーナー）

バイクスタンド、水道設備（洗面及び手洗い・自転車洗車用）、サイクリスト用マップ、サイクリスト伝言掲示板

○地域振興向け機能（地元PRコーナー）

地元野菜直売所、地元特産品販売所（展示含む）

拠点施設の導入機能としては、サイクリストと地域振興の2つの視点からの機能が必要である。

サイクリストの視点としては、自転車利用者アンケートからニーズの高かった機能を設置することを優先し、府道京都八幡木津自転車道線の終点でもある泉大橋周辺にはサイクリスト向けの休憩施設等が何もないということを念頭に置いて、その機能を導入すべきである。

次に、地域振興の視点としては、既に当該施設で、京都やましろ農業協同組合による農産物直売所が月1回の割合で開設されている。上狛地域は、古くから近郊農業が栄えていることから、地産地消を促進する流通網として、生産者及び消費者の双方からニーズの高い直売所を、さらに充実させていくべきである。加えて、お茶、筍及び葡萄等の全国に発信している特産品も多いことから、その知名度アップも含め、地元特産品販売（展示）コーナーを設置るべきである。

また、2つの双方の視点としては、地元地域住民やサイクリスト等の訪問者が世代を超えて、気軽に語り合えるような触れ合いが実現されるよう、誰もが会話できるスペースづくりとして、ベンチ等を設置るべきである。

なお、拠点施設の選定理由にも示したが、周辺には公共的施設等が集積していることから、それぞれの機能を上手く効率的に活用することを前提とし、拠点施設を活用して

いくことが、周辺一帯の地域の魅力向上にもつながっていくものである。

①基礎的機能

導入機能	設置場所、活用方法など
トイレ	隣接する山城支所（及び支所別館）のトイレを活用 ⇒拠点施設からの移動がスムーズになるように配慮が必要 (案内板設置・通路整備等)
駐車場	隣接する山城支所の駐車場を活用 ⇒集客イベント時には周辺駐車場の一時利用も視野に入れておくことが必要
自動販売機	拠点施設内に設置 ⇒自動販売機収益を運用資金に充当
会話スペース	拠点施設内に設置 ⇒会話訪問者の休憩

②サイクリスト向け機能（サイクリスト支援コーナー）

導入機能	設置場所、活用方法など
バイクスタンド	拠点施設内に設置
水道設備	隣接する山城支所の水道を活用 ⇒サイクリストの洗面と愛用自転車の洗車等に活用
サイクリスト用マップ	拠点施設内に掲示 ⇒一般的な市内観光案内地図ではなく、30km範囲の自転車利用者を視点とした案内マップ等を掲示
伝言掲示板	拠点施設内に設置 ⇒サイクリストの伝言等に利用

③地元地域向け機能（地元地域PRコーナー）

導入機能	設置場所、活用方法など
地元野菜直売所	拠点施設内に設置 ⇒JAやましろの地元野菜直売所を充実
地元特産品販売所 (展示含む)	拠点施設内に設置 ⇒上狹地域の地元特産品の販売及び展示

工 拠点施設の配置

拠点施設の配置は次のとおりとする。ただし、耐震調査等の結果によっては弾力的に対応するものとする。

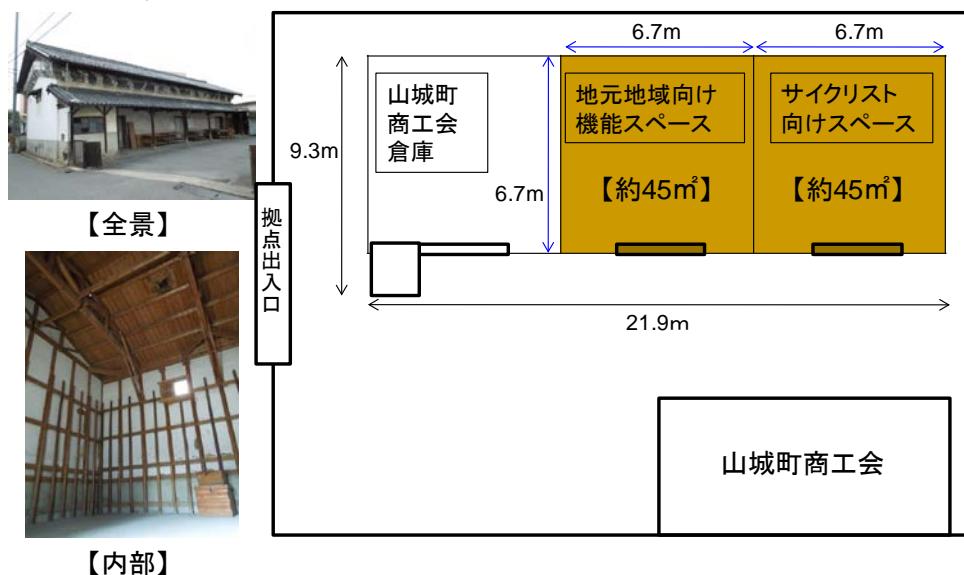
○施設内部イメージ

施設の内部は、現存活用を基本として、2区画（それぞれ約 45 m²程度の正方形【6.7m×6.7m】）を地元地域向け機能とサイクリスト向け機能を分断した方向で設置する。

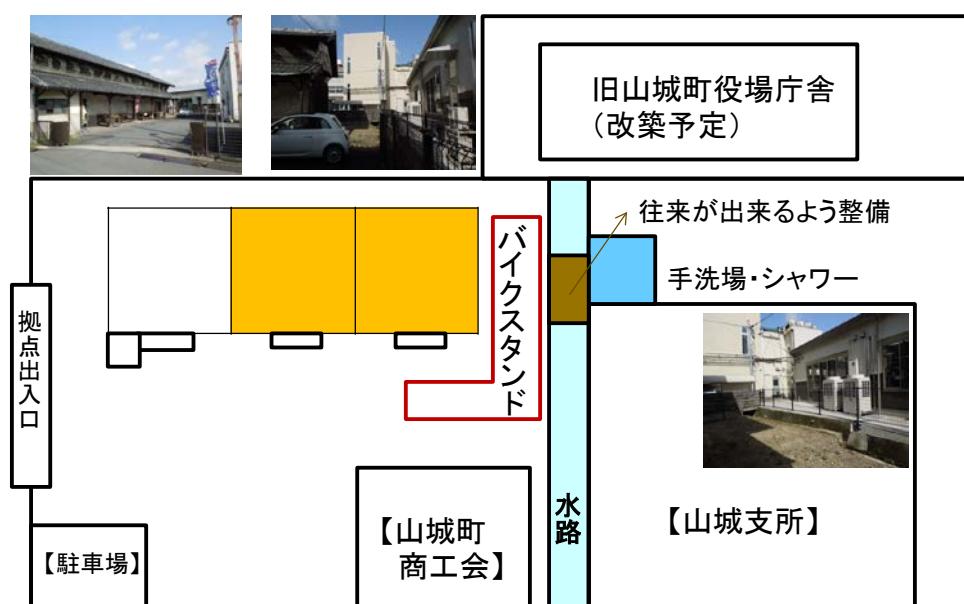
○施設周辺全体イメージ

周辺施設に配慮しながら訪問者等が、わかりやすく移動できるような整備を行う。

① 施設内部の配置イメージ



② 施設全体の配置イメージ



オ 拠点施設の整備方針

拠点施設の整備方針は次のとおりとする。

不特定多数を集客する公共施設として、限りなく建築基準法等に準じて安全な施設としての整備を図るものとする。

本施設は建築基準法の制限を受けないが、不特定多数の利用者が想定されることから、建築基準法に限りなく準じた方向で整備を進めるべきである。

なお、現状においては、以下の改築等の検討が必要である。

- ・耐震調査結果に基づく改築
- ・自然採光窓の設置（床面積1/20以上の窓）
- ・排煙窓の設置（床面積1/50以上の排煙窓）
- ・外壁・軒裏の防火構造対策

カ その他の拠点施設への留意点

その他の拠点施設への留意点としては、次のとおりとする。

○拠点施設への安全な誘導と交通事故防止対策

- ・泉大橋（京都八幡木津自転車道線終点）からのサイン等による安全誘導
- ・自転車による交通事故防止対策（道路整備・注意喚起）

サイクリストの立場から拠点施設への自転車による移動アクセスが安全、かつ容易でなければ、多くの方の訪問を期待することができない。泉大橋から拠点施設まで、一般道路（通学路を含む日常生活道路）を通行することとなることから、自転車による交通事故防止対策に万全を期すためにも、管轄の木津警察署や道路管理者から交通に関する助言等を得ておく必要がある。

（2）運営主体に関するこ

運営主体は実行委員会方式とし、各種団体へ設置及び参画の協力依頼に努める。

○実行委員会方式

木津川市、地域団体及び公共的団体等が、新しい一つの組織を立ち上げて、【仮称】環の拠点実行委員会による事業を展開する。

運営主体を実行委員会方式とするメリットとデメリットとしては、デメリット面が不安視されるが、市民協働といった点も踏まえ、所期の事業の目的を考えると地域振興といった観点から、地元団体が地域の振興と発展に一致団結して汗を流し、運営主体とならないことには存続すら危ういものとなってしまう恐れがある。

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> 事業の企画段階から、各種団体間で議論を行うことから、それぞれの要求や能力を充分に活用することができる。また、この議論を通じて地域の一体性も醸成することができる。 参加団体が持っている情報、ノウハウ及び人的パワー等を実行委員会が共有・吸収し、多様な世代の市民ニーズに即した企画などが可能となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続性や責任の主体が必ずしも明確でないといった課題を有しており、最終的に行政単独となり、所期の事業目的が果たされない。

拠点施設を長期的な継続を目指すためには、施設を活用する地元地域連合による実行委員会（【仮称】環の拠点実行委員会）が充分な収益を得るシステム構築と、その一部を維持管理費として捻出できることが望ましい。この収益を得ることが、より一層の自主的な活動を助長し、さらなる相乗効果のある市民協働と市民参画による地域振興につながっていくものである。

ただし、当然ながら、実行委員会の運営が軌道に乗るまでは、木津川市が充分な支援を行っていくべきであるが、市単独による中長期的な経年的負担は、自治体財源も限られており、市民の理解を得ることも困難である。そのためには、市を含めた実行委員会が自立できるように定期的に施設運営計画の検証するシステムを構築しておく必要がある。

（3）広報戦略に関するこ

広報戦略は次のとおり、茶問屋街等を題材として、あらゆる媒体を活用して丁寧に周知していくこととする。

○広報媒体及び案内サイン等による周知

観光関連パンフレット、市広報誌、市ホームページ、報道機関や自転車書籍への情報提供及び当施設イベントチラシ、案内サイン等

○クチコミ等による周知

各種団体からのクチコミ発信、サイクリストの伝言板等の活用、地元地域や各種団体への直接出前説明、他

当該施設の集客数に大きな影響をもたらす広報戦略は、あらゆる媒体を用いて、市内外へ発信する必要がある。特に、開設当初は、木津川市が当該施設を積極的にイベント等に活用することにより、歴史的な茶問屋街であることを地元市内へも認知度を向上させ、地域振興施設であることを丁寧にアピールすることが重要である。

また、わかりやすい案内サインも施設周辺に設置することが、自転車等による交通事故防止対策となることを認識しておかなければならない。

(4) 設置財源及び運営財源に関すること

○設置財源

当該施設の改築費用や案内サイン等の初期整備財源は、木津川市が国及び府の有利な補助金等を活用して確保するものとする。同様に、開設後の利便性向上や改善に向けた施設整備についても、有利な補助金等を活用できるよう対応することとする。

○運営財源

運営財源は、【仮称】環の拠点実行委員会が運営計画を立案して負担すべきであるが、軌道に乗るまでの当面の間は、市の支援が不可欠であることから、市は市民協働事業の運営財源等が対象となるような国及び府の有利な補助金等の研究等も中心的役割として担っていくべきである。

3 事業の実現に向けて

○所期の目的の整理

⇒市民協働の視点から事業を進める。

地元地域の振興、サイクリストを中心とした観光誘客、木津川市の魅力開発、サイクリングによる健康増進、市内外の世代を超えたふれあいの場 等

○事業の実施に向けて

⇒環の拠点創出事業の実現に向けて、所期の目的が反映できるよう、財源確保も含め、時代のニーズ等に基づき、木津川市をはじめとする地元地域団体が、弾力性をもって、手を取り合って進めていく必要がある

○茶問屋ストリートへの集客（木津川市の魅力開発）

⇒地域活性化・市内外への茶問屋街のアピール

⇒地元地域住民の力で茶問屋街の景観整備へつなげる

4 資料

木津川市環の拠点創出事業準備委員会条例

木津川市環の拠点創出事業準備委員会条例

平成 24 年 12 月 26 日条例第 35 号

(設置及び目的)

第1条 木津川市山城町上狛地域が築いてきた茶文化による観光の推進と地域間交流を促進するための環の拠点創出事業準備委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会の所掌事務は次のとおりとする。

- (1) 環の拠点創出事業に関する調査及び審議を行うこと。
- (2) 前号の環の拠点創出事業に関して、市長に提言すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員 12 人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者から市長が委嘱する。

- (1) 地域住民の代表者
- (2) 識見を有する者
- (3) その他市長が必要と認める者

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、平成 26 年 3 月 31 日までとする。

(会長及び副会長)

第5条 委員会に会長及び副会長 1 人を置き、それぞれ委員の互選により定める。

2 会長は、委員会を代表し、その会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は、会長が招集し、会長が議長となる。ただし、最初に開かれる会議については、本条の規定にかかわらず市長が招集する。

2 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第7条 委員会は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、説明又は意見を聞くことができる。

(公開)

第8条 委員会の会議は、公開とする。ただし、会長が必要と認めるときは、公開しない

ことができる。

- 2 委員会の会議の日時及び場所等については、あらかじめ広く周知することに努めるものとする。
- 3 委員会の会議の資料及び結果は、その開催後、速やかな公表に努めるものとする。ただし、第1項ただし書の規定に基づき会議を公開しない場合は、その資料及び結果を公開しないこととする。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、企画担当課において処理する。

(委任)

第10条 この条例に定めるもののほか、委員会の設置及び運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、公布の日から施行する。

(会議の特例)

- 2 第5条第2項の規定にかかわらず、会長が選出されるまでの間、第9条の庶務を処理する担当課長がその職務を代理する。

(失効)

- 3 この条例は、平成26年3月31日限り、その効力を失う。

木津川市環の拠点創出事業準備委員会 名簿

(敬称略)

区分	氏名	構成団体
第1号委員	福井 保知	上狹南部地域（地域長）
第2号委員	山崎 正史	立命館大学理工学部（教授）
	岡井 有佳	立命館大学理工学部（准教授）
第3号委員	川邊 隆司	山城茶業組合（組合長）
	坂本 利正	木津川市観光協会（理事長）
	杉野 耕造	自転車関連産業
	辻 忠	山城町ふるさと案内人の会（会長）
	出栗 伸幸	サイクリング愛好家
	花田 啓	京都やましろ農業協同組合（山城支店長）
	藤原 久博	木津川市山城町商工会（会長）
	吉村 由美子	サイクリング愛好家

【委員区分】

第1号：地元地域の代表者

第2号：学識経験者

第3号：市長が認める者

（商工団体、茶業団体、観光団体、自転車産業、サイクリスト）

【オブザーバー】

京都府山城広域振興局企画振興室 室長 辻村 徳夫

京都府総務部自治振興課 参事 藤岡 栄

準備委員会での検討経過

■第1回準備委員会（平成25年2月14日）

- ・委員委嘱
- ・会長及び副会長の選出
- ・議事
 - (報告事項)
 - ・委員会の役割及び運営
 - (協議事項)
 - ・環の拠点創出事業の概要
 - ・自転車利用者アンケート調査
- ・現地視察

■第2回準備委員会（平成25年3月27日）

- ・議事
 - (報告事項)
 - ・第1回準備委員会現地視察結果
 - ・自転車利用者アンケート結果
 - (協議事項)
 - ・施設選定について
 - ・設置方法について
 - ・導入機能について

■第3回準備委員会（平成25年5月9日）

- ・議事
 - (協議事項)
 - ・環の拠点創出事業に関する提言書骨子（案）について 他
 - ・運営主体について
 - ・運営手法について
 - ・広報戦略について
 - ・設置財源について

■第4回準備委員会（平成25年5月下旬）

- ・議事
 - (協議事項)
 - ・環の拠点創出事業に関する提言書骨子（案）について 他

■第5回準備委員会（平成25年6月下旬）

・議事

（協議事項）

・環の拠点創出事業に関する提言書（中間案）について 他

■第6回準備委員会（平成25年8月上旬）

・議事

（協議事項）

・環の拠点創出事業に関する提言書について

木津川市環の拠点創出事業準備委員会 会議結果要旨

会議名	第1回 木津川市環の拠点創出事業準備委員会		
日時	平成25年2月14日(木) 午後1時30分から午後4時30分	場所	木津川市役所 5階全員協議会室
委員	<p>■山崎 正史(会長)、■岡井 有佳(副会長) ■福井 保知、■川邊 隆司、■坂本 利正、■杉野 耕造、 ■辻 忠、■出栗 伸幸、■花田 啓、■藤原 久博、 ■吉村 由美子</p>		
出席者	<p>【オブザーバー】 京都府山城広域振興局企画振興室 室長 辻村 徳夫 京都府総務部自治振興課 参事 藤岡 栄 【市関係部署】 山城支所 支所長 松井 功 生活環境部観光商工課 課長 武田 浩文</p>		
事務局	尾崎課長、奥田係長、西村主任		
議題	<ol style="list-style-type: none"> 開会 委員紹介 市長挨拶 会長及び副会長の選出 議事 <ol style="list-style-type: none"> 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> 委員会の役割及び運営(資料1、別紙1、別紙2) 協議事項 <ul style="list-style-type: none"> 環の拠点創出事業の概要(資料2) 自転車利用者アンケート調査(資料3、別紙3) その他 現地視察(別紙4) 閉会 		
審議結果要旨	<ol style="list-style-type: none"> 開会 事務局より、開会を宣言した。 委員紹介 委嘱状を交付し委員名簿により委員紹介を行った。 市長挨拶 委員会に先立ち河井市長から挨拶があった。 会長及び副会長の選出 山崎委員を会長に、岡井委員を副会長に選出した。 議事 <ol style="list-style-type: none"> 報告事項 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の役割及び運営（資料1、別紙1、別紙2） 事務局より、資料1・別紙1・別紙2を基に説明し質疑応答を行った。 （2）協議事項 ・環の拠点創出事業の概要（資料2） 事務局より、資料2を基に説明し質疑応答を行った。 ・自転車利用者アンケート調査（資料3、別紙3） 事務局より、資料3・別紙3を基に説明し質疑応答を行った。 アンケートについては、一部修正し取り組むこととした。 <p>6. その他</p> <p>次回の委員会は、事務局より後日、通知することとした。</p> <p>7. 現地視察（別紙4）</p> <p>別紙4を基に、木津本町を車窓から、上狹南部地域を徒步で視察した。</p> <p>8. 閉会</p>
審議経過要旨	<p>1. 開会 審議結果要旨のとおり。</p> <p>2. 委員紹介 審議結果要旨のとおり。</p> <p>3. 市長挨拶 審議結果要旨のとおり。</p> <p>4. 会長及び副会長の選出 審議結果要旨のとおり。</p> <p>5. 議事</p> <p>（1）報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会の役割及び運営（配布資料 資料1、別紙1、別紙2） 事務局より、資料1・別紙1・別紙2を基に説明し質疑応答を行った。 主な意見・質疑等は次のとおり。 (○…質疑・意見、→…質疑に対する返答) ○委員会の役割の中で調査及び審議とあるが、調査の取組イメージはどのようなものか。 →調査としては、自転車利用者へのアンケートを予定している他、 地域資源について事務局で調査を行い、この委員会で議論をお願い したい。 <p>（2）協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環の拠点創出事業の概要（配布資料 資料2） 事務局より、資料2を基に説明し質疑応答を行った。 主な意見・質疑等は次のとおり。 (○…質疑・意見、→…質疑に対する返答) ○これまでに茶問屋ストリートで石畳の計画もあったが、事業費の中

に含まれているのか。

→山城町時に提言を貰っている内容であるが、今回は、まず人が集まる拠点施設を作り、次のステップとして景観の機運を高めていきたい。

○サイクリングロードを活かすためにも、木津町や恭仁宮跡といった魅力ある様々な文化遺産の活用を考えていくべきではないか。

→今回は市の中でのモデルケースとしたい取組であり、いろいろと考えていきたい。

○建築物の保全は今がぎりぎりのタイミングという思いである。今回の取組はいいことであるが、景観条例をすぐにとは難しいが、保全が好ましいくらいのことは発してはどうか。

→市が規制をかけることは難しい。茶の香りやこれまでの保全の思いを、より認識してもらい、次の段階で検討していく内容になってくると考える。

○自転車を活用した地域振興や観光振興は全国的にも取り組まれている。しかし全てが成功している訳ではない。この地域は奈良・京都の中間に位置し既に自転車道もあるという好条件地である。

サイクリングステーションの運営も色々あり、良い面、悪い面も含めて、それらの調査をしてみてもいいのでは。

次に自転車利用者はいろいろと幅が広い。どこにターゲットを絞るのかが重要であり、そこを見誤ると厳しいと考える。

○嵐山から木津そして奈良に自転車道でつながっているのか。

→これまで繋がっていなかった木津川市の部分が整備され、一部自転車道ではないがつながっている。

→奈良県内は県が整備している自転車道になっている。

○この地域でサブネットワーク的な視点も含め、トイレや休憩所なども含めてマップづくりも課題にしてはどうか。

○木津川サイクリング倶楽部では、インターネットでモデルコースを紹介している。観光協会の補助で山城や加茂のコースの他、和束町から補助をもらう中で和束町へ抜けるルートも作った。

○いろいろなマップがあるのであれば、そういうものも行政と一緒に活用してはどうか。

○茶問屋街を訪れる観光客はどれくらいか。

→現状は少ないが、それぞれの主体でイベント等も企画しており、そういった時は多くの訪問がある。

○以前の調査の際、住民の機運として8割は景観を整備したいという結果だった。また木津本町辺りでは、建物の階数制限などの声も出ていた。

- 観光協会でも、さまざまな散策ルートを作っている。
- ・自転車利用者アンケート調査（配布資料 資料3、別紙3）
事務局より、資料3・別紙3を基に説明し質疑応答を行った。
アンケートについては、一部修正し取り組むこととした。
主な意見・質疑等は次のとおり。
(○…質疑・意見、→…質疑に対する返答)
- 自転車アンケートは2種類あるが、それぞれの取組イメージはどのようなものか。
→ひとつは、事務局が現地へ出向いてアンケートを行いたい。もう一方はサイクリングクラブ等を対象にしたい。
- 問1は内容が同じなのに文言が異なっているが意味はあるのか。
→再度、アンケートの内容を確認し修正する。
- アンケートのサンプリングがカギになると思うが、ショップやクラブはレベルが高いと思う。それよりも自転車道を走っている方の場合は生の声を聞くことができる。
自転車道の利用者は時間帯で異なる。朝はプロ的な方、昼は家族などピクニック的な利用である。
- 同行者について質問してはどうか。
- 子どもと一緒に際、自動販売機を見つけて給水するのも一苦労である。ぜひ施設には子どもの目線も含めてみてはどうか。
- これまで、上狹で観光案内をしたのは歩くで来られる方ばかりであった。
- これからは自転車で来られる方にも歩いてもらってもいいのでは。
- 休日や週末に自転車の方を見るが、数は少ないイメージである。自転車道の終点に看板などでPRすることで呼び込めるのではないか。
- 過去の調査でお茶を売っていない。飲ましてもらえないという声もあった。
- 拠点にもサロン的要素があれば、観光案内所も含めることも可能であることから複合的視点が必要である。
- 今回のアンケートはレジャーの方を対象にしており、例えば健康を目的としている方は答え辛いのではないか。少し工夫をしてはどうか。
- 一般の人も来るような施設、直売所であったり、様々な目的を持つ人が混ざった方が活性化する。
- ぜひ商売に結びつけるべきである。
- 拠点を整備する上で失敗例にはどういうものがあるのか。
→ハコモノである。かつて補助金を使って建てたもので残念な状態になっているものがある。全国人気ランキング7位（2010年 日本

	<p>経済新聞 何でもランキング おすすめのサイクリングコース) である。この自転車道の終点から 500 メートルの距離であり、サイクリングだけでなく、ジョギング・ウォーキングを組み合わせるスポーツ的施設もひとつである。そこで地域の情報を得るということも大事である。</p> <p>ハードだけでソフトが無い所は失敗している。</p> <p>○既に自転車道を利用している方でも終点まで行かない方も多い。現在は拠点が無いので、気軽に立ち寄れるスポットがあるのはいい。</p> <p>○自転車利用は、退職した方は平日に、若い世代は土・休日である。</p> <p>○自転車道で言えば、玉水橋・八幡で休憩している人をよく見かけるが、最近は府道上狛城陽線でも多く見る。人を引っ張り込むには、お茶でも目的があればいいと思うが、複合施設があればいい。</p> <p>○これまでから道の駅的なものを要望しているが実現に結びついていない。</p> <p>6. その他</p> <p>次回の委員会は、事務局より後日、通知することとした。</p> <p>7. 現地視察 (別紙 4)</p> <p>別紙 4 を基に、木津本町を車窓から、上狛南部地域を徒步で視察した。</p> <p>8. 閉会</p>
その他特記事項	傍聴者 2 人

会議名	第2回 木津川市環の拠点創出事業準備委員会				
日時	平成25年3月27日(水) 午後3時から午後4時50分	場所	木津川市役所 4階4-4会議室		
委員		<p>■山崎 正史(会長)、■岡井 有佳(副会長) ■福井 保知、□川邊 隆司、■坂本 利正、■杉野 耕造、 ■辻 忠、■出栗 伸幸、■花田 啓、■藤原 久博(代理出席: 矢嶋美千代)、■吉村 由美子 ※□:欠席者</p>			
出席者		<p>【オブザーバー】 京都府総務部自治振興課 参事 藤岡 栄 【市関係部署】 山城支所 支所長 松井 功 生活環境部観光商工課 課長 武田 浩文</p>			
事務局		尾崎課長、奥田係長、西村主任			
議題	<ol style="list-style-type: none"> 開会 会長挨拶 議事 <ol style="list-style-type: none"> 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> 第1回準備委員会現地視察結果(資料1、別紙1) 自転車利用者アンケート結果(資料1、別紙2、別紙3) 協議事項 <ul style="list-style-type: none"> 施設選定について(資料1) 設置方法について(資料1) 導入機能について(資料1) その他 閉会 				
審議結果要旨	<ol style="list-style-type: none"> 開会 事務局より、開会を宣言した。 会長挨拶 議事に先立ち山崎会長から挨拶があった。 議事 <ol style="list-style-type: none"> 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> 第1回準備委員会現地視察結果(資料1、別紙1) 事務局より、資料1・別紙1を基に説明し質疑応答を行った。 自転車利用者アンケート結果(資料1、別紙2、別紙3) 事務局より、資料1・別紙2・別紙3を基に説明し質疑応答を行った。 協議事項 				

	<ul style="list-style-type: none"> ・施設選定について（資料1） 事務局より、資料1を基に説明し質疑応答を行った。 ・設置方法について（資料1） 事務局より、資料1を基に説明し質疑応答を行った。 ・導入機能について（資料1） 事務局より、資料1を基に説明し質疑応答を行った。 <p>4. その他 次回の委員会は、事務局より後日、通知することとした。</p> <p>5. 閉会</p>
審議経過要旨	<p>1. 開会 審議結果要旨のとおり。</p> <p>2. 会長挨拶 審議結果要旨のとおり。</p> <p>3. 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回準備委員会現地視察結果（資料1、別紙1） 事務局より、資料1・別紙1を基に説明し質疑応答を行った。 ・自転車利用者アンケート結果（資料1、別紙2、別紙3） 事務局より、資料1・別紙2・別紙3を基に説明し質疑応答を行った。 主な意見・質疑等は次のとおり。 (○…質疑・意見、→…質疑に対する返答) ○サイクリングの目的は何か。 →アンケート結果にもあるように「走ることが好き」が約7割であった。 <p>○施設利用を考えた場合、自転車利用者はほとんどがリピーターの方であるので、他の人も使えるような施設に幅を拡大していくことが必要ではないか。調査としては、自転車利用者へのアンケートを予定している他、地域資源について事務局で調査を行い、この委員会で議論をお願いしたい。</p> <p>○団体用アンケートで、初心者なのに自転車道を走っていることに驚いた。 →講習会に来られている人は、自転車に興味があつたり、趣味としておられる方が多かった。また講習会の内容も、日ごろから走っている人も為になるものであった。</p> <p>○講習会の自転車は高機能な人が多いのか。 →サイクリストとサイクリストではない方の自転車のイメージは異なる。自転車道を走っているのはスポーツサイクリングであり、そういう方を対象とした人の講習会である。長距離であっても楽に乗れる</p>

方法や楽しみ方が内容である。

○茶問屋ストリートには、自転車だけでなく、車やハイキングなどの方も訪れている。ハイキングの方などからは、周辺の観光情報が少ないという声も聞くので、そういった方も対象にしては。

○自転車道沿いのグラウンドで遊んでいる子どもも多い。例えばそういった家族連れの方にもPRするための看板やアピールが必要ではないか。

○市民は、自分の街を見慣れてしまっているので、あらためて少し意識してしまうような取組はどうか。

○サイクリングの楽しみには、峠のアップダウンを楽しむダウンヒルもある。

(2) 協議事項

・施設選定について（資料1）

事務局より、資料1を基に説明し質疑応答を行った。

主な意見・質疑等は次のとおり。

（○…質疑・意見、→…質疑に対する返答）

○一か所に絞ってもいいのか。

→いくつか候補をあげるというのもあるが、この施設で上手く活用していきたい。

○建築基準法について整理はどうなっているのか。

→用途は倉庫であり、拠点づくりに際しては、一般的には集会所のような機能を持つため用途変更が必要となる。

ただし京都府に確認したところ、面積が100m²未満であれば、届出は必要ないということであった。また、公共的な施設になるので、耐震や採光等の一般的な基準を準用してはという意見をいただいている。

○都市計画の用途地域は何か。

→近隣商業である。

○この場所は、いろんな条件が整っている。観光・商業・サイクリングなど、複合的にするものでいいものになるのでは。

○資料にある地域間交流とはどういったイメージか。

→シティサイクルでも気軽に来ていただくような地域内交流をイメージしている。

○この倉庫は米の倉庫として活用してきた。JA京都やましろでは、最も古く貴重な施設だと感じている。なお内部の柱は、米貯蔵のための風通しと壁を傷めないようにある。

○一度耐震診断を受けてはどうか。

→不特定多数の方が利用される施設であり、行政が取り組むもので

るので調査はしていきたい。

○木を活用した耐震設計も可能である。限界耐力計算法を用いてはどうか。

○自転車を導くルートであるが、スピードの事を考えて、国道を通るルートも含めてはどうか。

- ・設置方法について（資料1）
- ・導入機能について（資料1）

事務局より、資料1を基に説明し質疑応答を行った。

主な意見・質疑等は次のとおり。

（○…質疑・意見、→…質疑に対する返答）

○拠点の所でPR板が必要である。拠点から30分歩けば色々あるのでポイント的でもいいので、情報掲示が必要である。

○安全性は大丈夫なのか。自転車だけでも、車・自転車・歩行者の対応を考える必要がある。ただしこれは全国的にも難しい課題である。

○施設となれば、人を置いておく必要がある。平日は地域の人を呼び込むことが必要であり、直売所的なものが必要ではと思う。観光客については、歩ける範囲内にも環濠集落をはじめ、ポイントはあるので、そういった所も含めた仕掛けを考えることも必要である。

○年中開けていて経営的に大丈夫なのか心配である。

○流れ橋は全国的にも有名である。そういった観光スポットがあるのは大きい。また、八幡市の場合は、レンタサイクルの取組をやっており、流れ橋の周辺でも見る。

○ぶらりと周辺を回れるような機能も入れてはどうか。

○行政がどこまで関わるのか、また民間はどこまでやるのか、その辺りも考える必要があるのでは。

○委員会の役割の中で調査及び審議とあるが、調査の取組イメージはどのようなものか。

○花野果市の運営は会員で行い、軌道に乗っているが、拠点で同じような施設となれば、この地域の特徴があるものを扱う必要がある。

○花野果市でもPRいただき、この施設ではお茶をもっとPRしてもいいのでは。

○スポーツとして来る人と、そうでない人の二本立てで考える必要がある。

○自転車に乗る方のペットボトルの中身は何か。

→スポーツドリンクが基本である。自転車に乗っているときは、スポーツドリンクであるが、休憩するときはお茶も飲む。

○嵐山であれば、バイクスタンドのある店に、自転車に乗る人が集中している。

- 案内について、安全走行上おすすめできないコースという表示した地図などを作つてもいいのでは。
- レンタサイクルの自転車も高価なものにしてはどうか。
- レンタサイクル等は、競輪の補助金を活用する方法もある。
- 市内だけでなく近隣市町とも協力して、スタンプラリーを導入し、そこにプレゼントがあれば人は多く集まる。
- 自転車のアドバイスをボランティアでやることは可能か。
 - 自転車のサークル的なものは、世話人がいて、企画したイベントに人が集まつてくるようなイメージである、そういう協力は難しい。
 - 調査としては、自転車利用者へのアンケートを予定している他、地域資源について事務局で調査を行い、この委員会で議論をお願いしたい。
- 施設の位置からも広告塔が必要である。
- 利益が出るような仕組みを作つて、継続性を図つていくことも大事。
- 自転車に乗る人はひとりが多い。休憩中に仲間ができ、団体でたまに一緒に走るような人が多い。
- 自転車にもSOSサービスがあつてもいいのでは。
- たけのこを掘つて、みんなでバーベキューのような体験型プログラムも人気がある。
- 公共がやるのであれば、一部の人でなく、もっと多くの人が利用できるように初期の目的に戻り再整理することも必要であり、そこで全体が協力して事業を進める仕組みを考えるべきである。

4. その他

次回の委員会は、事務局より後日、通知することとした。

5. 閉会

自転車利用者アンケートの実施結果

■アンケートの目的

自転車利用者のニーズを調査し、拠点施設の導入機能や広報戦略の検討資料とする。

■配布方法等について

アンケートは、自転車道を走行している方と木津川サイクリング俱楽部が行った初心者講習会の参加者を対象として実施した。

なお、自転車道を走行している方には自転車道配布用を、また初心者講習会の方には団体等配布用を用いた。

	自転車道利用者	初心者講習会（木津川サイクリング俱楽部）
実施日	平成25年3月9日（土）	平成25年2月24日（日）
実施場所	府道京都八幡木津自転車道線 上津屋橋（流れ橋）休憩所	アスピアやましろ
配布数・回収数	100人	28人
配布方法	休憩している方に配布・回収	講習会参加者に配布・回収

■アンケートの概要

アンケートの設問は、以下の内容とした。

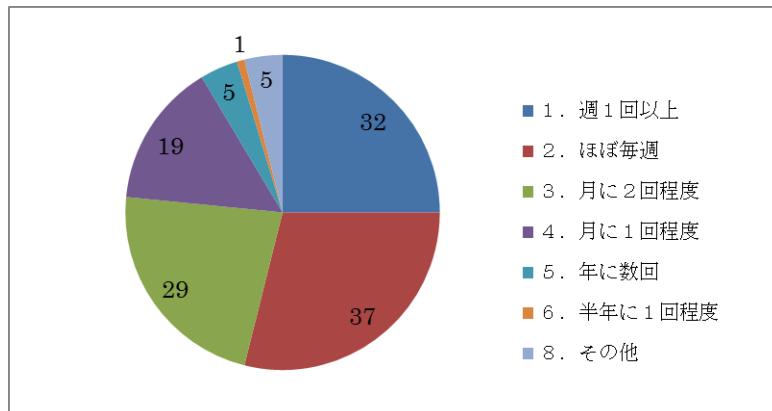
項目【】はアンケートの問番号	理由・活用方法
活動頻度 (サイクリングに出かける頻度【1】、自転車道の利用頻度【2】)	需要調査 (来場者予測)
行程 (目的地【3】、休憩地【4】、利用施設【5・6】)	範囲設定 (広報範囲、モデル施設)
利用意向 (施設の必要性【7】、位置の妥当性【8】)	需要調査 (他地域への応用)
導入機能 (施設【9】、設備【9】、サービス【10】)	導入機能選定 (施設整備の優先順位)
サイクリングコースの設定要素 (コース特性【11】、付加価値【11】)	利用促進策 (モデルコース設定)
情報取得ツール (情報取得方法【12】)	広報戦略 (広報媒体の優先順位)
消費額 (1行程の消費額【13】)	観光消費額調査 (収支計算)
属性(フェイスシート) (性別【14】、年齢【15】、利用歴【16】、自転車の種類【17】)	顧客特性 (クロス集計)

アンケート集計結果

※グラフの数値は回答数

問1-1 どれくらいの頻度でサイクリングに出かけていますか。

- ・約3割の方が、ほぼ毎週サイクリングをおこなっており、週1回以上・月に2回程度を合わせると、約8割を占める。



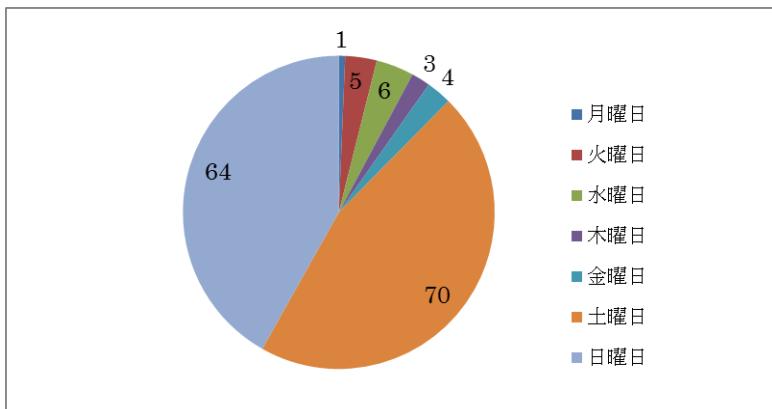
選択肢	回答数	割合
1. 週1回以上	32	25%
2. ほぼ毎週	37	29%
3. 月に2回程度	29	23%
4. 月に1回程度	19	15%
5. 年に数回	5	4%
6. 半年に1回程度	1	1%
7. 年に1回程度	0	0%
8. その他	5	4%
合計	128	100%

「8. その他」の記載内容

- ・ほぼ毎日
- ・晴日は毎日
- ・毎日

問1-2 よく出かけられる曜日はいつですか。(複数回答)

- ・土曜日・日曜日で約9割を占める。

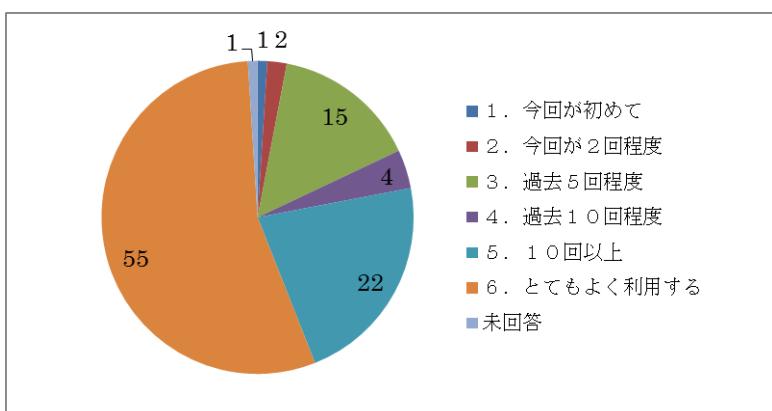


選択肢	回答数	割合
月曜日	1	1%
火曜日	5	3%
水曜日	6	4%
木曜日	3	2%
金曜日	4	3%
土曜日	70	46%
日曜日	64	42%
合計	153	100%

問2 府道京都八幡木津自転車道線はよく利用しますか。

- 自転車道配布用では、とてもよく利用するが最も多く5割を超えた。
- 団体用配布用でも、利用したことがない方は1人であった。
- 全体でもほとんどの方が利用した経験を持ち、過去5回程度利用している方が約9割であった。

自転車道配布用



選択肢	回答数	割合
1. 今回が初めて	1	1%
2. 今回が2回程度	2	2%
3. 過去5回程度	15	15%
4. 過去10回程度	4	4%
5. 10回以上	22	22%
6. とてもよく利用する	55	55%
未回答	1	1%
合計	100	100%

団体等配布用



選択肢	回答数	割合
1. 利用したことがない	1	4%
2. 1・2回程度	3	11%
3. 過去5回程度	5	18%
4. 過去10回程度	6	21%
5. 10回以上	6	21%
6. とてもよく利用する	6	21%
7. 知らなかった	0	0%
未回答	1	4%
合計	28	100%

「6. とてもよく利用する」と答えた61人のひと月の利用頻度

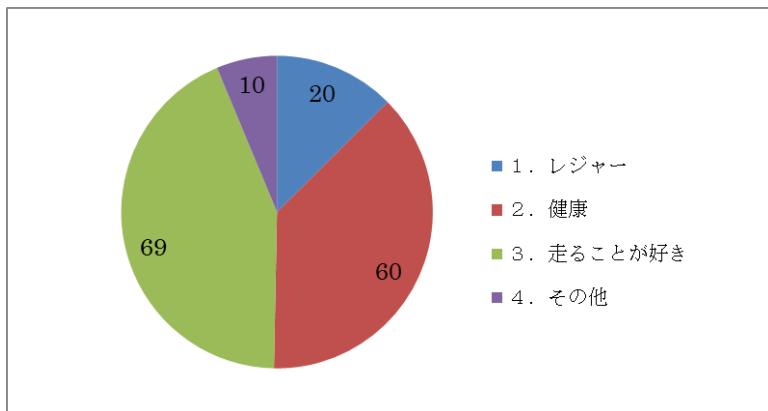
1回： 4人
4回： 12人
7回： 3人
30回： 1人

2回： 12人
5回： 2人
10回： 2人

3回： 4人
6回： 3人
20回： 5人

問3-1 自転車に乗る目的は何ですか。(複数回答)

- 走ることが好きな方が約7割、健康を目的とされている方が6割であった。



選択肢	回答数	割合
1. レジャー	20	13%
2. 健康	60	38%
3. 走ることが好き	69	43%
4. その他	10	6%
合計	159	100%

「8. その他」の記載内容

- ・いろいろ
- ・トレーニング
- ・ひまつぶし
- ・レースの練習
- ・練習

問3-2 よく行かれる目的地はどこですか。(複数回答)

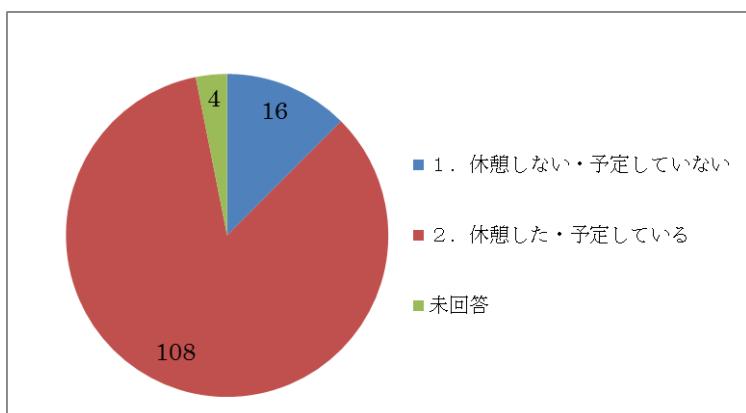
- ・府道京都八幡木津自転車道線でアンケートを行ったこともあり、嵐山・上津屋橋が約3割を占めた。
- ・木津を目的地とした方は約1割であった。

2人以上の回答があった目的地	1人から回答のあった目的地
嵐山	けいはんなホテル（精華町）
上津屋橋（流れ橋）	けいはんな記念公園（精華町）
木津 ※木津川市(1)含む	当尾（木津川市）、三国越林道（和束町～伊賀市）
八幡市 ※御幸橋(2)含む	大正池（井手町）くろんど池（交野市・生駒市）
奈良市	京都市、京都大原、大和郡山市、吉野町、
信楽	枚方市、門真市、淀川、藤井寺市、金剛山、
和束町	天野原、和歌山県
京田辺市 ※京田辺市運動公園(1)含む	(地名・施設名以外)
明日香村	パン屋、直売所、歴史跡巡り
滋賀県 ※琵琶湖(1)含む	日帰り圏内どこでも、自然との触れ合い
大阪市	

計78件

問4 休憩はどうされますか。(複数回答)

- ・約8割は途中で休憩をしたり休憩の予定をしている。
- ・府道京都八幡木津自転車道線でアンケートを行ったこともあり、上津屋橋と答えた方が多かったが、次いでコンビニであった。。



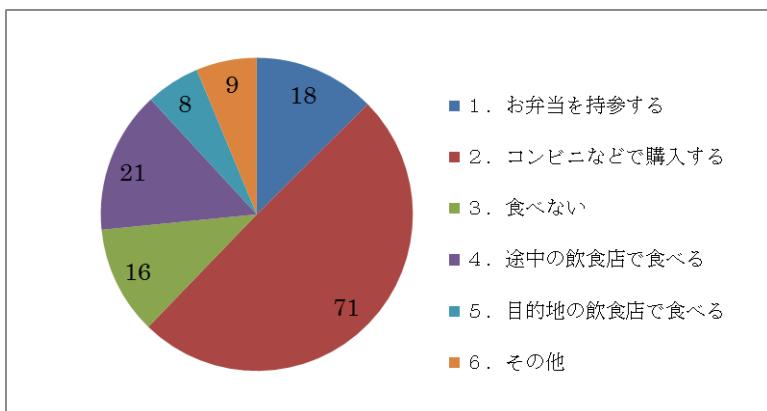
選択肢	回答数	割合
1. 休憩しない・予定していない	16	13%
2. 休憩した・予定している	108	84%
未回答	4	3%
総計	128	100%

2人以上の回答があった施設名または地名	1人から回答のあった施設名または地名
上津屋橋（流れ橋）	アスピア山城、イオン高の原、
コンビニ	木津、木津三角公園、
舟形公園（京田辺市）	嵐山、背割堤（八幡市）、京田辺市、
けいはんなプラザ（精華町）	山吹ふれあいセンター（井手町）、
四季彩館（八幡市）	茶カフェ（和束町）、
桂大橋（京都市）	トイレのある所、喫茶店、川岸
御幸橋（八幡市）	
公園	
石清水八幡宮（八幡市）	
泉大橋	
道の駅	

計 81 件

問5 昼食はどうされますか。（複数回答）

- ・コンビニなどで購入している方が約5割、飲食店で食べる方は約2割であった。
- ・食べない方も約1割であった。



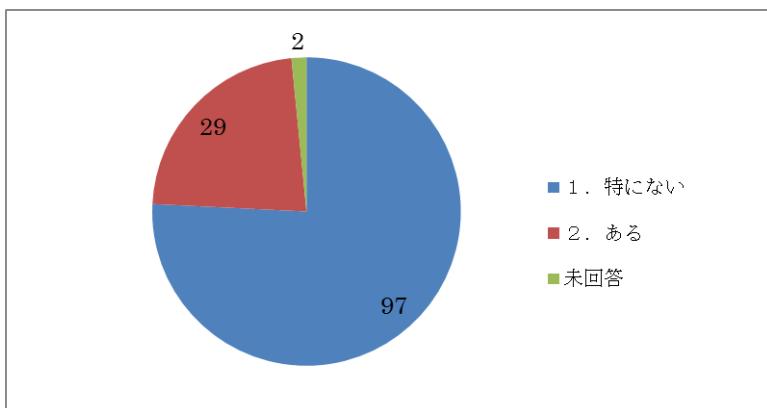
選択肢	回答数	割合
1. お弁当を持参する	18	13%
2. コンビニなどで購入する	71	50%
3. 食べない	16	11%
4. 途中の飲食店で食べる	21	15%
5. 目的地の飲食店で食べる	8	6%
6. その他	9	6%
合計	143	100%

「よく利用する施設」「その他」の記載内容

- ・家で食べる（4人）
- ・携帯食（2人）
- ・パン（1人）
- ・けいはんなプラザ（精華町）（1人）
- ・伏見区（1人）

問6 普段、サイクリングでよくご利用される施設はありますか。

- ・特定の利用施設がない方が7割以上であった。
- ・コンビニを利用している方が最も多い。



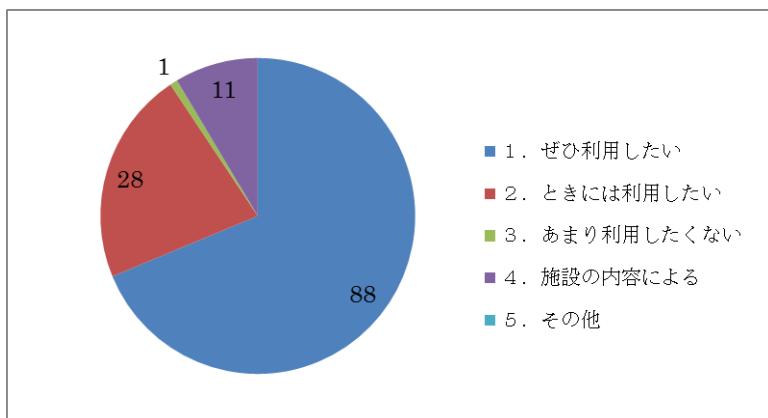
選択肢	回答数	割合
1. 特にない	97	76%
2. ある	29	23%
未回答	2	2%
合計	128	100%

2人以上の回答があった施設名		1人から回答のあった施設名
コンビニ	13人	イオン高の原、アスピア山城、
トイレ	4人	四季彩館（八幡市）、御幸橋付近のコンビニ、
スーパー	3人	京田辺市、けいはんなプラザ（精華町）、
道の駅等	2人	淀川、関西医大の休憩所（枚方市）
上津屋橋（流れ橋）	2人	雨つゆをしのげる場所
公園	2人	

計35件

問7 木津川市内の自転車道周辺に休憩所があれば利用したいですか。

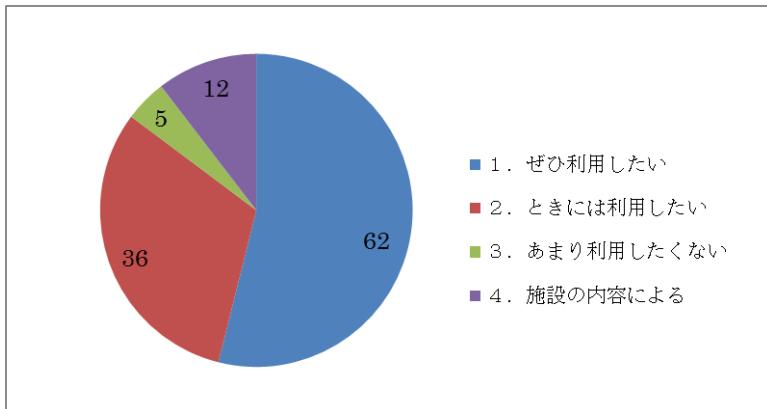
- ぜひ利用したいが約7割であり、ときには利用したいを合わせると約9割を占める。



選択肢	回答数	割合
1. ぜひ利用したい	88	69%
2. ときには利用したい	28	22%
3. あまり利用したくない	1	1%
4. 施設の内容による	11	9%
5. その他	0	0%
合計	128	100%

問8 設置した拠点施設をご利用いただけますか。

- ぜひ利用したい・ときには利用したいを合わせると約8割を占める。
- 施設の内容によると答えた方が約1割。



選択肢	回答数	割合
1. ぜひ利用したい	61	48%
2. ときには利用したい	36	28%
3. あまり利用したくない	5	4%
4. 施設の内容による	11	9%
5. その他	2	2%
未回答	13	10%
合計	128	100%

問8-1 問8で「3. あまり利用したくない」を選択された方の理由は何ですか。

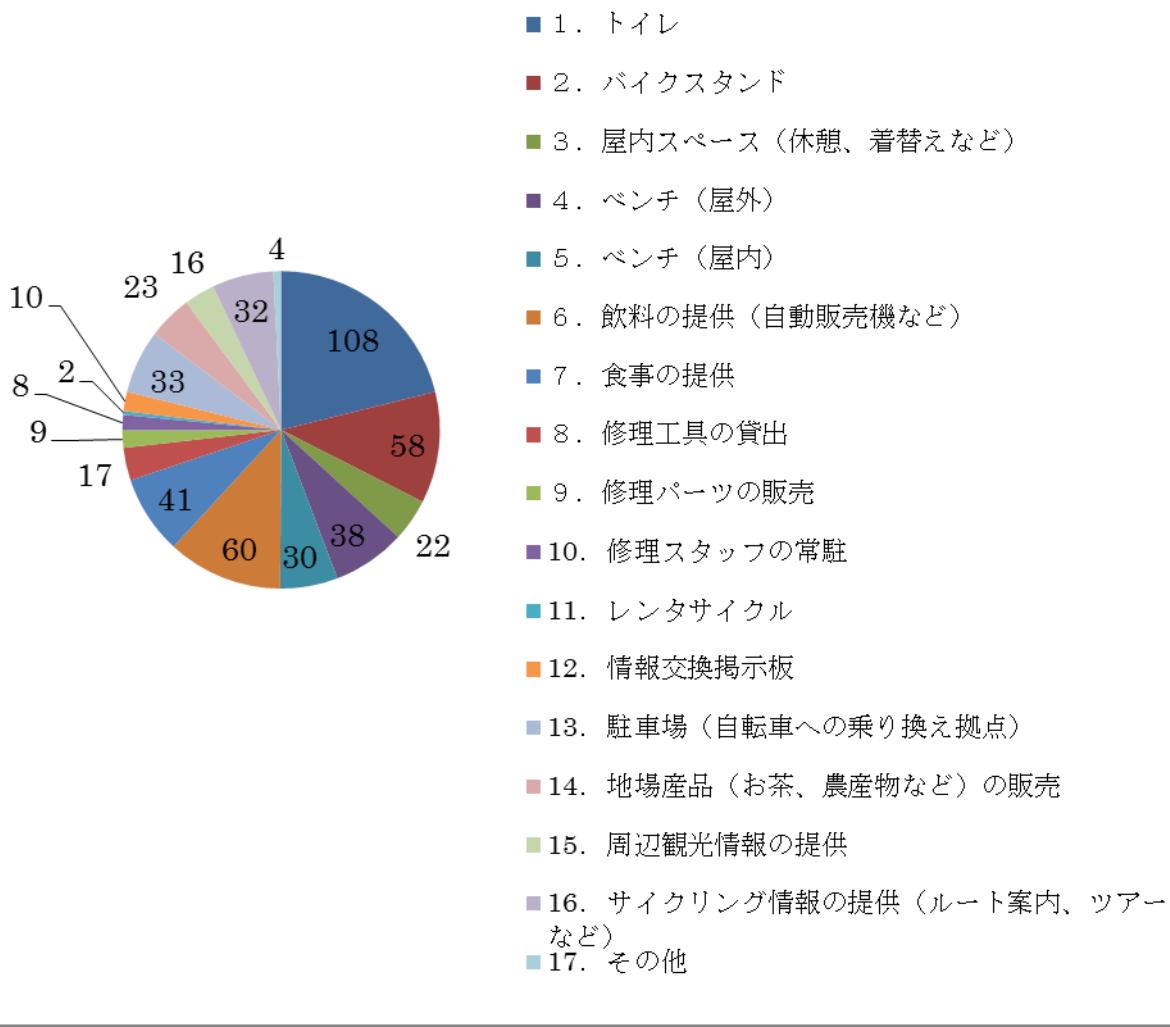
選択肢	回答数	割合
1. 自転車道から離れている	2	40%
2. 泉大橋を渡るのが面倒	0	0%
3. 周辺地域に魅力がない	0	0%
4. 施設の必要性を感じない	0	0%
5. 周辺の道路事情	0	0%
6. その他	2	40%
未回答	1	20%
合計	5	100%

「その他」の記載内容

- ・行かない

問9 拠点施設の機能として、何が特に必要だと思いますか。(複数回答)

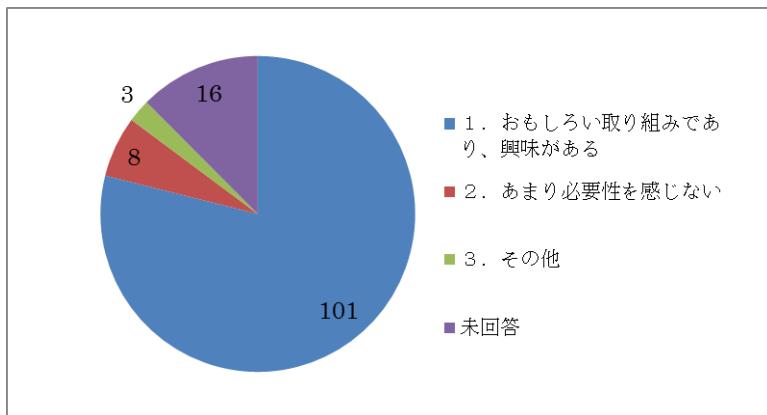
- ・回答者数128人に対し、トイレを選択した方が108人と約8割を占めた。
- ・トイレ以外で、回答者数の3割以上が選択した機能としては、飲料の提供(60人)・バーカウンタ(58人)・食事の提供(41人)・屋外ベンチ(38人)であった。



選択肢	回答数	割合
1. トイレ	108	21%
2. バイクスタンド	58	11%
3. 屋内スペース（休憩、着替えなど）	22	4%
4. ベンチ（屋外）	38	7%
5. ベンチ（屋内）	30	6%
6. 飲料の提供（自動販売機など）	60	12%
7. 食事の提供	41	8%
8. 修理工具の貸出	17	3%
9. 修理パーツの販売	9	2%
10. 修理スタッフの常駐	8	2%
11. レンタサイクル	2	0%
12. 情報交換掲示板	10	2%
13. 駐車場（自転車への乗り換え拠点）	33	6%
14. 地場産品（お茶、農産物など）の販売	23	5%
15. 周辺観光情報の提供	16	3%
16. サイクリング情報の提供（ルート案内、ツアーなど）	32	6%
17. その他	4	1%
合計	511	100%

問10 お茶のおもてなしといった地域資源を活用したサイクリング拠点をどう感じるか。

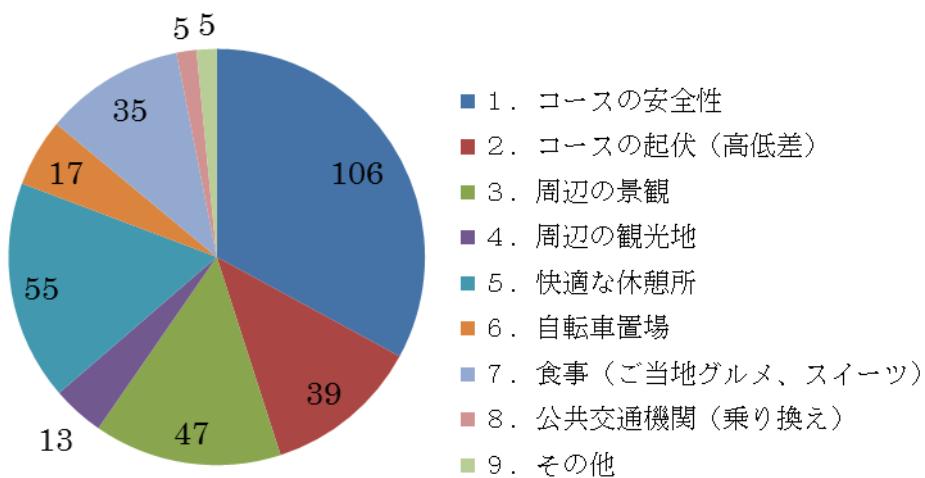
- おもしろい取り組みであり興味がある方が約9割を占める。



選択肢	回答数	割合
1. おもしろい取り組みであり、興味がある	101	79%
2. あまり必要性を感じない	8	6%
3. その他	3	2%
未回答	16	13%
総計	128	100%

問11 サイクリングコースを考える上で重視していることは何ですか。(複数回答)

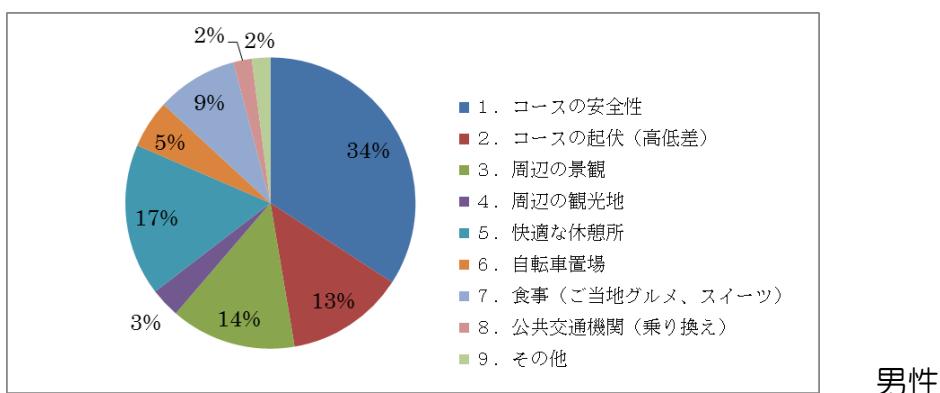
- 回答者数128人に対し、コースの安全性を選択した方が106人と約8割を占めた。
- コースの安全性以外で、回答者数の約3割が選択した項目は、快適な休憩所(55人)・周辺の景観(47人)・コースの起伏(39人)・食事(35人)であった。



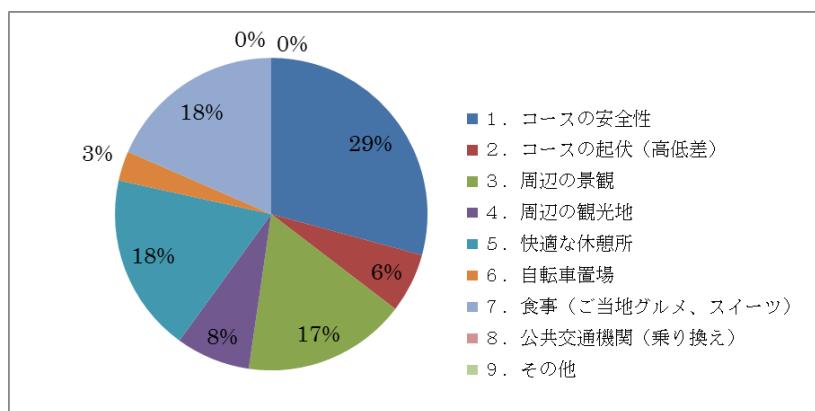
選択肢	回答数	割合
1. コースの安全性	106	33%
2. コースの起伏(高低差)	39	12%
3. 周辺の景観	47	15%
4. 周辺の観光地	13	4%
5. 快適な休憩所	55	17%
6. 自転車置場	17	5%
7. 食事(ご当地グルメ、スイーツ)	35	11%
8. 公共交通機関(乗り換え)	5	2%
9. その他	5	2%
合計	322	100%

問11の男女別集計

- 男女共にコースの安全性が最も多くいすれも約3割を占める。
- 食事(ご当地グルメ、スイーツ)では女性の関心が高い。(女性 18%・男性 9%)



選択肢	男性	
	回答数	割合
1. コースの安全性	83	34%
2. コースの起伏(高低差)	32	13%
3. 周辺の景観	34	14%
4. 周辺の観光地	8	3%
5. 快適な休憩所	41	17%
6. 自転車置場	13	5%
7. 食事(ご当地グルメ、スイーツ)	22	9%
8. 公共交通機関(乗り換え)	5	2%
9. その他	5	2%
合計	243	100%



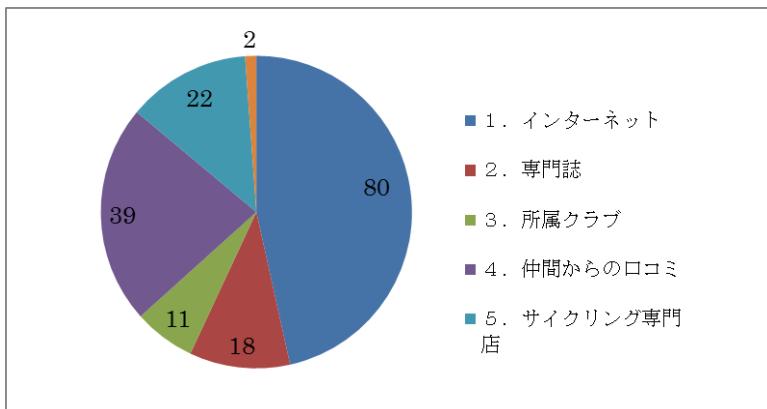
女性

選択肢	女性	
	回答数	割合
1. コースの安全性	19	29%
2. コースの起伏(高低差)	4	6%
3. 周辺の景観	11	17%
4. 周辺の観光地	5	8%
5. 快適な休憩所	12	18%
6. 自転車置場	2	3%
7. 食事(ご当地グルメ、スイーツ)	12	18%
8. 公共交通機関(乗り換え)	0	0%
9. その他	0	0%
合計	65	100%

問12 普段、サイクリングに関する情報(イベント、ツアーナど)をどのように取得されますか。

(複数回答)

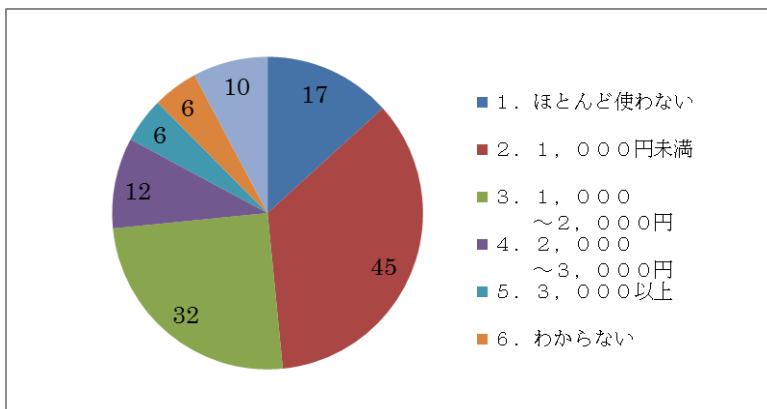
- 回答者数128人に対し、インターネットを活用している方が80人と約6割を占めた。
- 回答者数128人に対し、仲間からの口コミの方が39人と約3割を占めた。



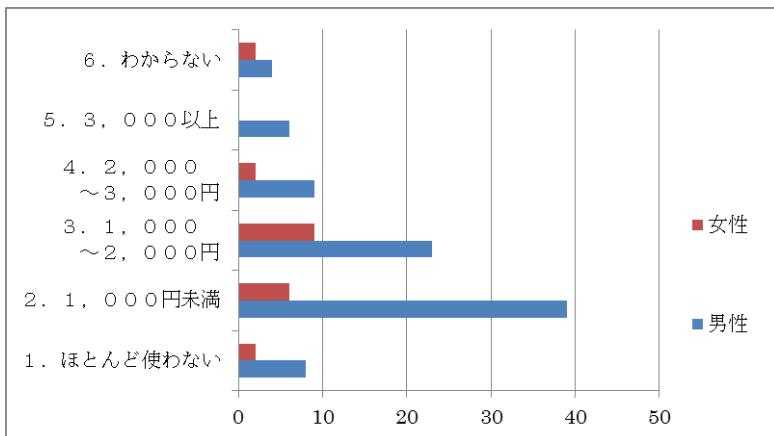
選択肢	回答数	割合
1. インターネット	80	47%
2. 専門誌	18	10%
3. 所属クラブ	11	6%
4. 仲間からの口コミ	39	23%
5. サイクリング専門店	22	13%
6. その他	2	1%
合計	172	100%

問13 サイクリング1回の予算はどの程度ですか。

- 1,000円未満が最も多く、2,000円未満が約7割を占めた。
- 3,000円以上使う方は、全体の5%に過ぎなかった。
- 男女別では、男性が1,000円未満が最も多く、女性は1,000～2,000円でした。

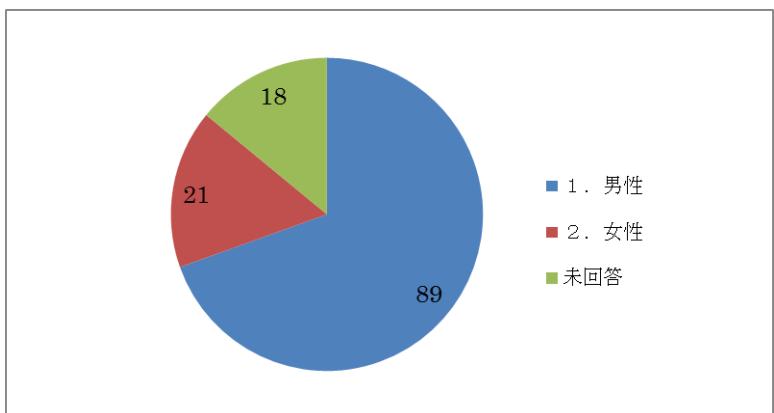


選択肢	回答数	割合
1. ほとんど使わない	17	13%
2. 1,000円未満	45	35%
3. 1,000～2,000円	32	25%
4. 2,000～3,000円	12	9%
5. 3,000以上	6	5%
6. わからない	6	5%
未回答	10	8%
合計	128	100%



問14 あなたの性別はどちらですか。いずれかに○を付けてください。

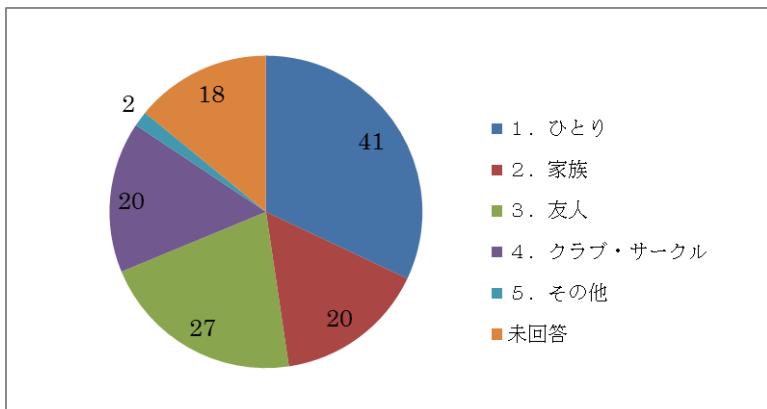
- ・男性が7割を占める。



選択肢	回答数	割合
1. 男性	89	70%
2. 女性	21	16%
未回答	18	14%
合計	128	100%

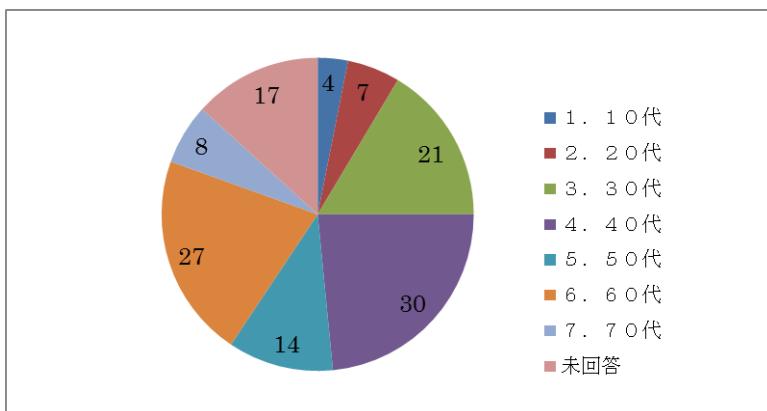
問15 普段、どういった方と一緒にサイクリングをされますか。

- ・ひとりで行動している方が全体の4割を占める。

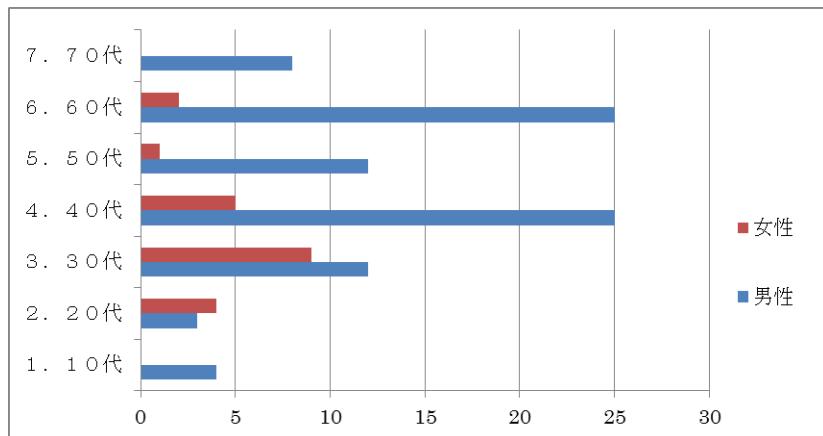


問16 あなたは何歳ですか。いずれかに○を付けてください。

- ・30代から60代で幅広い世代の利用がある。
- ・男性は40代・60代がそれぞれ約2割を占める。
- ・女性は30代が多く次いで40代となっている。

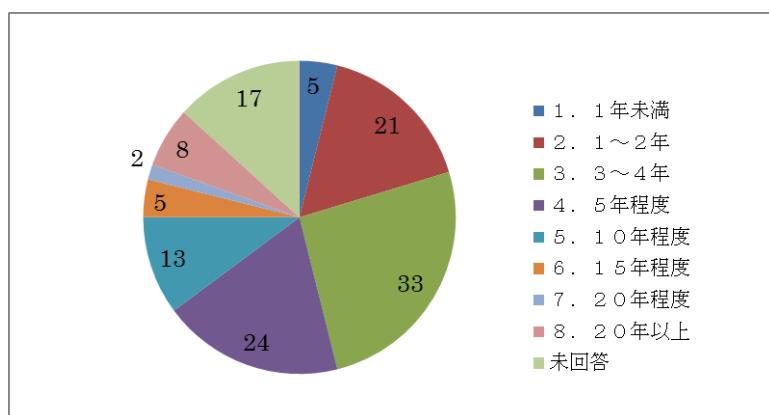


選択肢	回答数	割合
1. 10代	4	3%
2. 20代	7	5%
3. 30代	21	16%
4. 40代	30	23%
5. 50代	14	11%
6. 60代	27	21%
7. 70代	8	6%
未回答	17	13%
合計	128	100%



問17 あなたのサイクリング歴を教えてください。いずれかに○を付けてください。

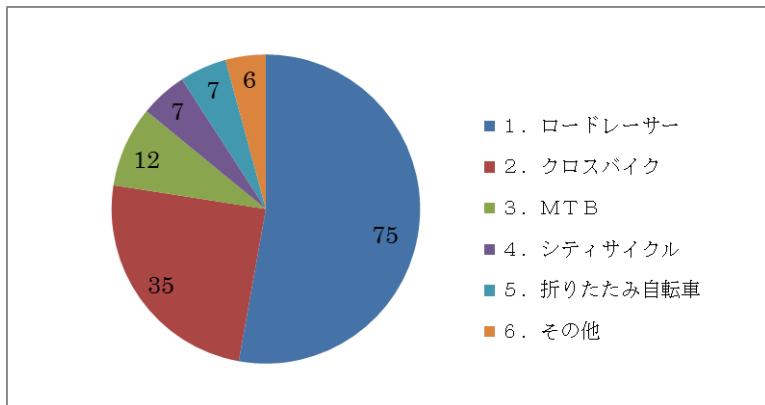
- 5年以下の方が約8割を占める。



選択肢	回答数	割合
1. 1年未満	5	4%
2. 1~2年	21	16%
3. 3~4年	33	26%
4. 5年程度	24	19%
5. 10年程度	13	10%
6. 15年程度	5	4%
7. 20年程度	2	2%
8. 20年以上	8	6%
未回答	17	340%
合計	128	100%

問18 普段、使用されている自転車のタイプはどれですか。(複数回答)

- 回答者数 128 人に対し、ロードレーサーを使用している方が 75 人と約 6 割を占めた。
- ロードレーサーとクロスバイクの利用者が全体の約 8 割を占めた。



選択肢	回答数	割合
1. ロードレーサー	75	53%
2. クロスバイク	35	25%
3. MTB	12	8%
4. シティサイクル	7	5%
5. 折りたたみ自転車	7	5%
6. その他	6	4%
合計	142	100%

「6. その他」の記載内容

- ・ランドナー
- ・ミニベロ
- ・持っていない
- ・トラックレース用改造
- ・電動自転車

交流拠点の設置に関するご意見・ご提案

- サイクリングロードに看板を設置ください。
- サイクリングロードのトイレの完備。
- トイレの完備、バイクスタンド。

- ・飲み物を補給できる自動販売機を設置してください。
- ・夏場の日陰や強風をしのげる場所及びトイレがないので是非進めてほしい。
- ・休める所がある事は有意義です。
- ・子どもも楽しめるようにして頂きたいです。
- ・子どもも遊べる公園があればうれしいです。
- ・終点ならば駐車場は是非欲しいです。夏場の水分補給場所が増えるとうれしい。
- ・女性も仲間にいるのでトイレの設置。
- ・地域の特産品を飲食できるような場所もあれば良いのでは。
- ・地元住民の理解、迷惑にならないように。
- ・駐車場（自転車への乗り換えができる施設）。
- ・特別なものはいりませんが、必要なものが常時あるとありがたい。
- ・箱だけでなくイベントにも力を入れてください。
- ・木津川は関西で最も走りやすい自転車道です。施設を是非に。
- ・隣接の市町村が協力して広域的な整備ができれば良いですね。御苦労さまです。
- ・おもしろい取組なので頑張ってください。
- ・がんばってください。
- ・ぜひ設置をお願いします。
- ・頑張ってください。
- ・頑張って作ってください。
- ・地域交流拠点を是非実現してください。

環の拠点創出事業 第3回準備委員会

木津川市環の拠点創出事業準備委員会事務局
平成25年5月9日－第3回委員会

委員会の主な検討事項

※第1回委員会資料から

議題	内容	時期(予定)
施設選定	どこに拠点を整備するの (利便性、安全性、実現性、経済性)	第2回
設置方法	どのような方法で設置するの (購入or賃貸、設置主体)	第2回
導入機能	どのような機能を組み込むの (トイレなどの設備面、お茶提供などのソフト面)	第2回、第3回
運営主体	誰が運営するの (単一組織or実行委員会、構成員)	第3回
運営手法	どのような方式で運営するの (施設貸付、運営委託、民設民営)	第3回
広報戦略	どのような方法でPRするの (利用可能な広報媒体、イベント)	第3回、第4回
設置財源	設置財源は誰が負担するの (関係者の負担、国・府の補助金等、市)	第4回
運営財源	運営費は誰が負担するの (採算性、外部資金)	第4回

※必要に応じて第5回を開催

拠点施設の配置①

～拠点施設の利活用(施設内部イメージ)～

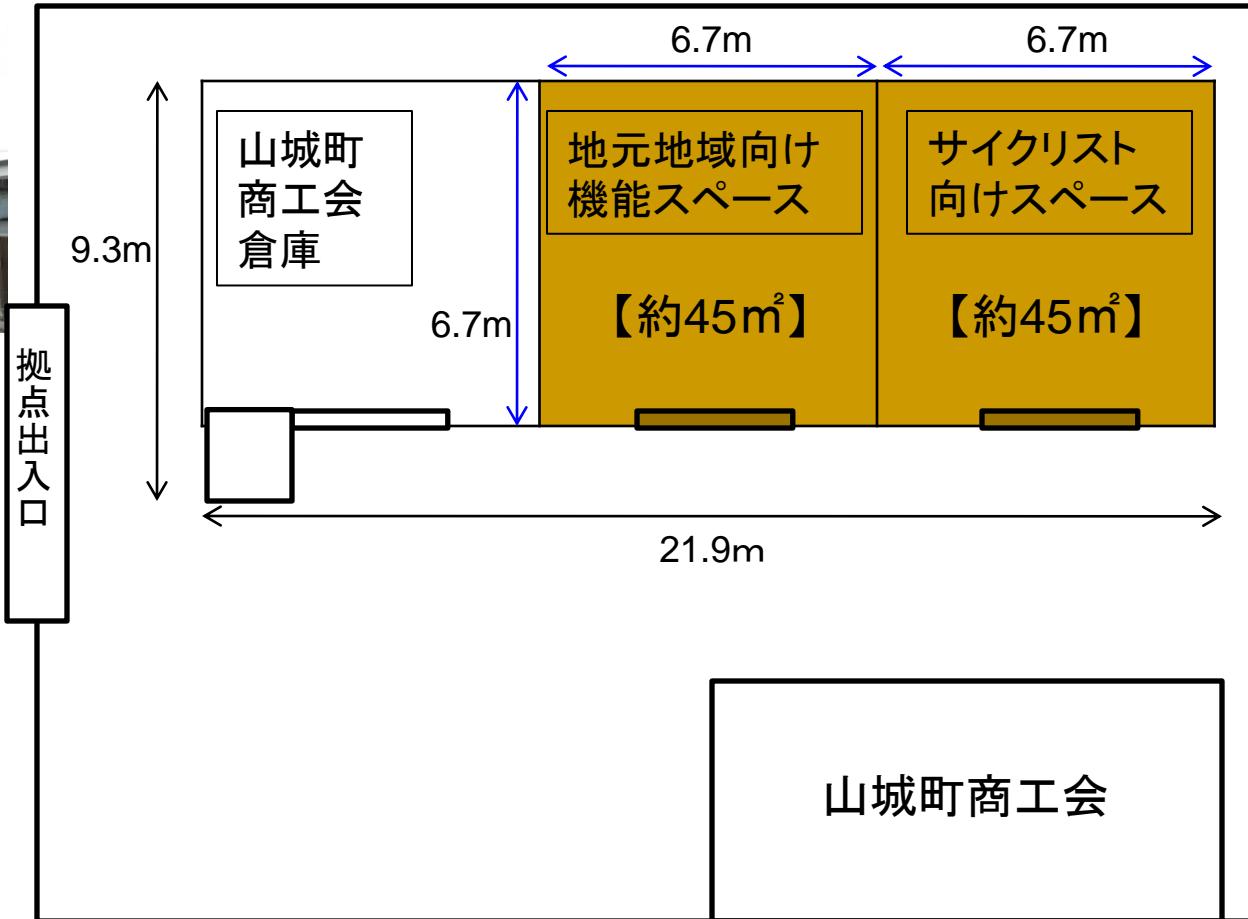
施設:京都やましろ倉庫
面積:約165m²



【全景】



【内部】



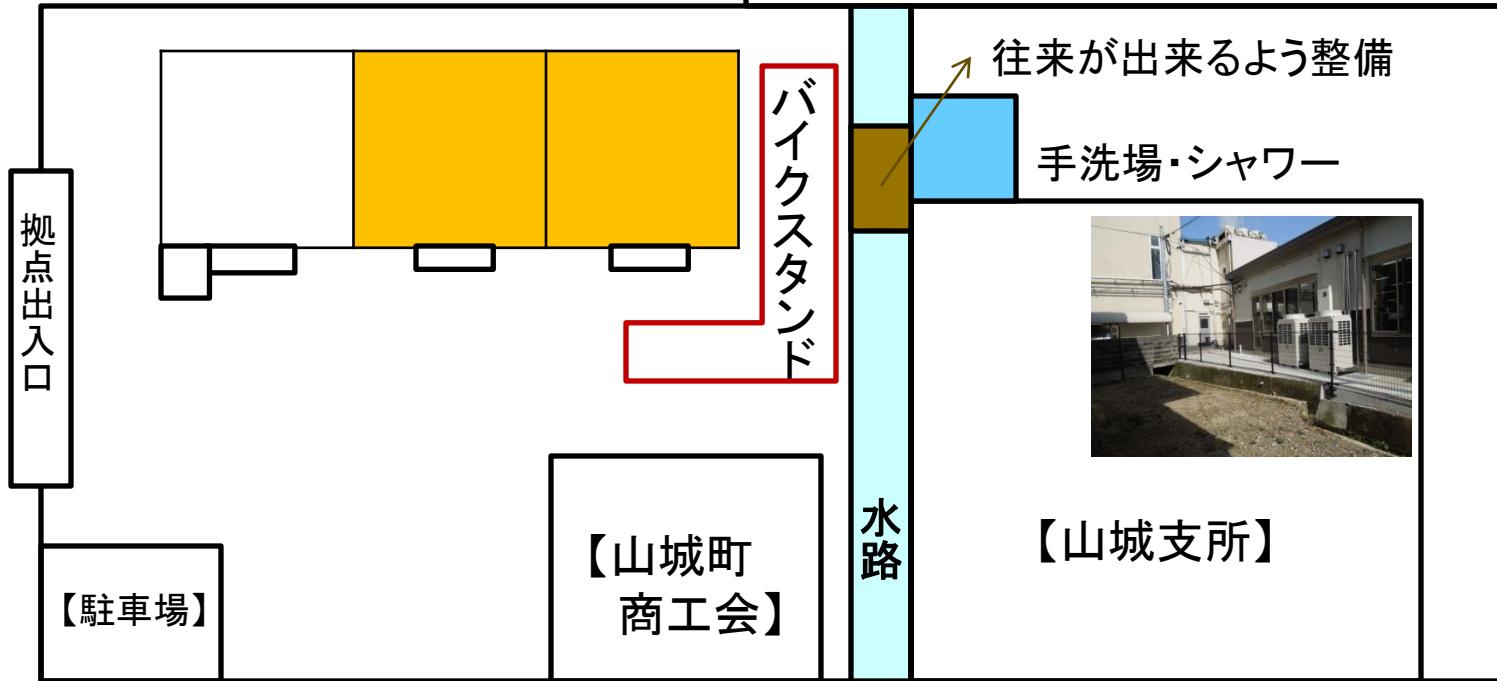
拠点施設の配置②

～拠点施設の利活用（施設全体の配置イメージ）～

施設：京都やましろ倉庫
面積：約165m²



旧山城町役場庁舎
(改築予定)



拠点施設の整備方針

～安全な施設整備～

改築面積が、100m²以下そのため建築基準法の制限を受けない

施工設備

- ・耐震調査結果に基づく改築
- ・自然採光窓の設置(床面積の1/20以上の窓)
- ・排煙窓の設置(床面積の1/50以上の排煙窓)
- ・外壁・軒裏の防火構造対策(24条・35条関係)

留意点

拠点施設への安全な誘導と交通事故防止対策

- ・泉大橋(京都八幡木津自転車道終点)からのサイン等による安全誘導
- ・自転車による交通事故防止対策(道路整備・注意喚起)

運営主体について①

～どの方式により運営するのか(単一組織or実行委員会)～

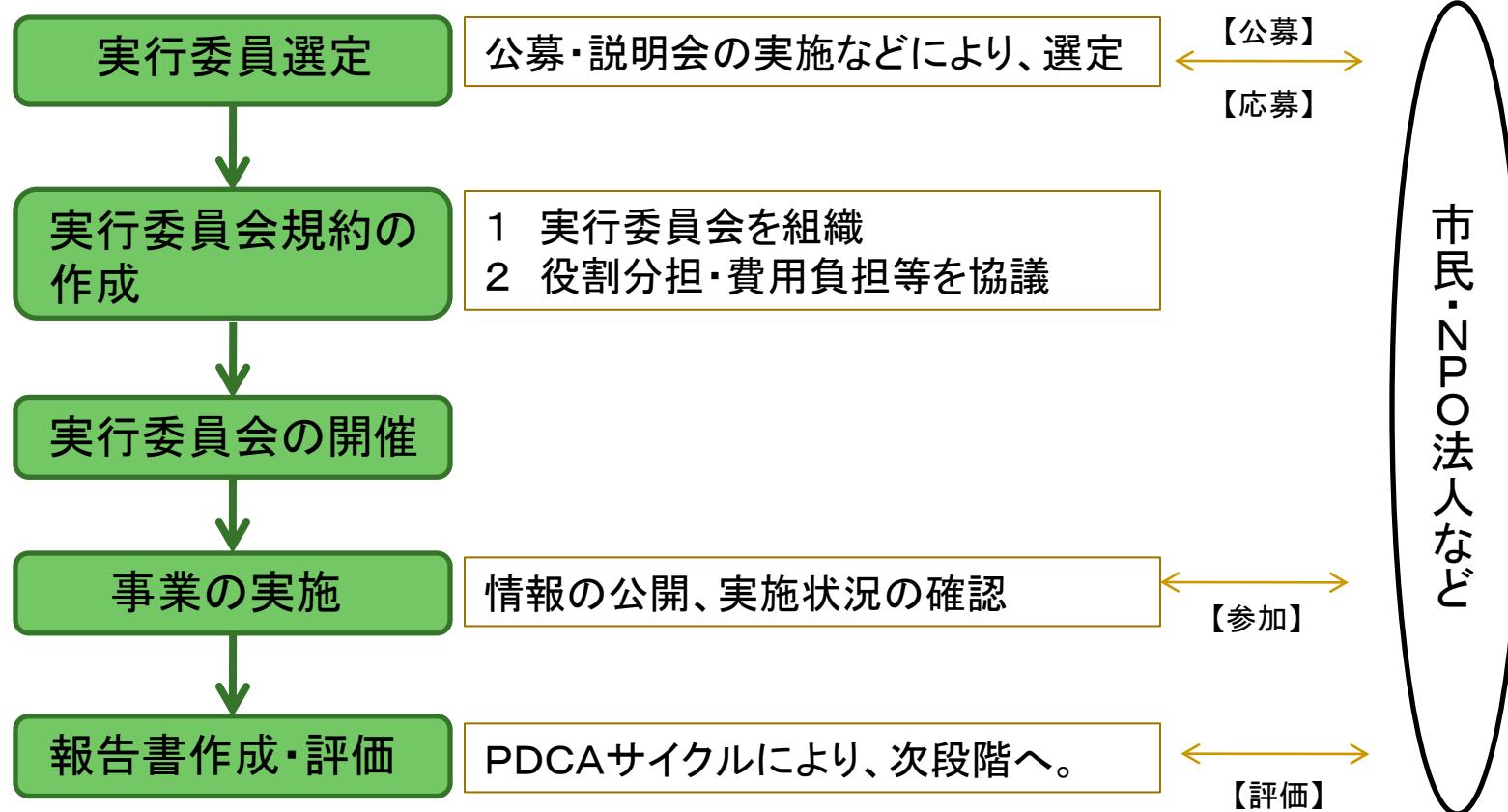
運営主体	メリット	不安視されること
実行委員会	<p>①事業の企画段階から、各主体の意見を出し合いながら実施することで、適切なパートナーシップを築くことができる。</p> <p>②参加する各団体が協力することで、それぞれの団体が持っている情報やノウハウ、人的パワーなどを活用でき、市民ニーズに即した企画やより規模の大きなイベントの実施が可能となり、幅広い参加を促すことができる。</p>	<p>①事務局について、どの団体が引き受けるのか。</p> <p>②継続性や責任の主体が明確でない。</p>

事業の目的、
及び地域振興の観点

市、地域団体及び公共的団体等が、新しい一つの組織を立ち上げ、連合体による事業展開

運営主体について②

～実行委員会設立までのフロー図～



運営主体について③

～実行委員会での運営における各種団体などの取組み内容(案)～

団体	期待する取組み内容
全ての団体	<p>【仮称】環の拠点実行委員会に参画</p> <p>①拠点施設のPR活動</p> <p>②各種団体のイベント会場としての活用</p>
地元地域に関する団体等	<p>①ふるさと案内人活動時に誘客</p> <p>②地元住民の生きがいづくりの検討</p> <p>③高齢者の運営参画(老人クラブ等の地域活動)の検討</p>
農業に関する団体等	地元野菜直売所(地産地消)の充実
商工に関する団体等	<p>①地元特產品の販売及び展示</p> <p>②飲食物の提供と斡旋</p>
観光に関する団体等	<p>①観光マップの作成・配架</p> <p>②観光モデルコースの検討</p>
茶業に関する団体等	<p>①お茶の提供及び実演販売</p> <p>②お茶の淹れ方講習会などの実施</p>
サイクリングに関する団体等	<p>①サイクリスト相談コーナーの設置</p> <p>②サイクリスト講習会の実施</p> <p>③サイクリストツーリングイベントの企画</p>

広報戦略について

～茶間屋ストリートを題材とした、広報戦略～

広報媒体及び案内サインによるPR

主な広報媒体



【観光関連パンフ】



【ホームページ】



【広報誌】

その他、新聞、
イベントチラシなど

案内看板の設置



【自転車ルート案内サイン】



【石碑】

クチコミ等によるPR

サイクリストの伝言板の活用、運営主体による出前説明等のPR作戦

設置財源について

～初期整備財源と、開設後の運営財源～



環の拠点創出事業に関する初期整備費用

拠点施設に関する経費



周辺環境に関する経費

・導入機能の整備費用 など

・案内サイン など



国・府の有利な補助金等を活用する



開設後の利便性の向上、拠点施設などの改善に関する費用



委員会のスケジュール

	H25.4	H25.5	H25.6	H25.7	H25.8	H25.9	H25.10
委員会		第3回	第4回	第5回 中間答申		第6回 答申	
市民等					パブコメ		
事務局				中間案政策会議 パブコメ広報準備		パブコメ集計	事業計画政策会議
その他							事業予算編成